

なかしゅんべつ

2012
3
No.410



目次

みらい塾……………	2~3	営農対策情報……………	8
営農サポート協議会総会 ……	4	根室地区JA温泉湯治……………	9
乳牛改良同志会総会……………	5	わが家のアイドル……………	10
サポート協議会メンバー紹介…	6	生乳課情報……………	13
全酪連中春別育成センター完成…	7	理事会の動き……………	15

今月のアイドルでは、和やかな雰囲気
が漂う玉木さん家族取材しました。

経営環境の異なる酪農家と交流して

私達、JA中春別みらい塾第3期生は、修了旅行として1月23日から26日までの4日間、茨城県の牧場へ視察に行きました。

伊藤 孝彦

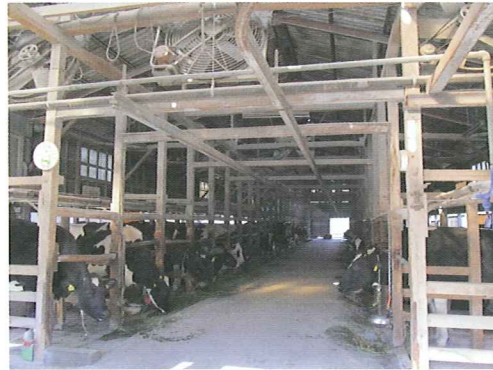
24日に東京の名所を散策し、翌日午前中は千葉県の成田ゆめ牧場を視察しました。

午後からは茨城県へ移動し、美野里酪農業協同組合の木名瀬牧場と侘パイオニアファームを視察しました。

真冬にもかかわらず、気温も氷点下になることも少なく暖かでした。

木名瀬（きなせ）さんの牧場は50頭を夫婦2人で経営している小規模農家ですが、良質乳生産にこだわっており、関東地区でも常にトップクラス

でそれを維持するための細やかで徹底した飼養管理に育成預託で中春別農協とも関わりの深いパイオニアファーム（朝倉牧場）は、飼養頭数650頭の大規模農場でした。先代で現在、美野里酪農協の組合長である朝倉実行（あさくらみつゆき）さんは、牧場の経営を始めた頃の苦労や、昨年の東日本大震災で長期にわたる停電や、原発による生乳の廃棄などで悩まされた事を話してく



ださいました。夜には宿泊先の大洗で美野里酪農協の職員を迎え会食を開き、互いの地域の酪農の状況や生乳生産に対する



る姿勢などについて意見を交換し、親睦を深めることができました。今回の視察で気候や経営環境が異なる酪農家や関係者と出会い交流したことで、3期生それぞれに実りの多い研修旅行になったと思います。



第3期みらい塾

受講生の終了レポートを紹介します

平成23年度みらい塾を終了されました受講生の終了レポートが寄稿されましたので掲載いたします。

みらい塾 受講を終えて



片岡 卓也

私がみらい塾の受講を決めたきっかけは、「知らないことを訊けるのは今」という動機でした。1月より22回に及んで受けた講義はどれも中身の濃い内容であり、初めて知ることや、改めて再認識する事などが多

かった気がします。初めての講義は小湊組合長が直々に農協の成立、歴史や運営をわかり易く講義して頂いた事が、今も鮮明に思い出されます。序盤においては、なかなか知る機会のない農協内部

での組織や業務内容の説明、役割を理解できました。特に経営の安定や所得の確保のために「どんな些細なことでも、我々が組合員さんの裏方として技術や情報の提供をする」という力強いメッセージを頂き、受講生

の励みになったと思います。受講が回を重ねる毎に、外部への視察や研修も入り酪農検定検査協会、ジェネティクス北海道道東事業所など、普段は間接的な関わりでしかない機関にも立ち入ることが出来、貴重な講

義を受けること事が出来ませんでした。

根室農業改良普及センターより講師を迎え、現場における周産期病対策や改善事例を題に講義をして頂き、普段より何気なく牛と接する現場において「牛を注視・観察すること」、この基本的な積み重ねこそが事故を未然に防ぎ、あるいは軽度抑える事こそが酪農経営を安定的に行う上で重要で

みらい塾を 修了して



伊藤 孝彦

私にとってみらい塾での一年間は短く、修了まであつという間でしたがとても濃密な経験が出来たと思います。もともと農協青年部や豊原酪青研、4Hクラブなど様々な団体の活動や勉強会などに参加していましたが、ちょうど結婚し後継者として本格的に勉強しよ

ある事を再認識する事が出来ました。美原地区の田中

牧場のご厚意により、ボディコンディショニングスコアの見方やモニタリングでの今までとは違った視点で捉える観察方法には、新鮮さを覚えるばかりでした。
根釧農業試験場の講義では、経営の基礎となる粗飼料確保について草地管理の基礎、植生の見方、施肥設計等、座学のみならず草地

うと思つた頃で、中春別農協みらい塾の塾生だった友人や先輩などの話を聞いたのがきっかけで入講しようと思いました。

3期生のメンバーは豊原地区の4人と美原地区の竹林君と畠山君の計6人で、少し離れていたのが今まであまり交流がありませんでした。初めのうちは緊張していたのか、なかなか会話も無く、こちらから話題を振るとい感じでしたが、回を重ねるうちに次第に緊張も解け、受講の内容や、また内容と違う話題でもお互いに気軽に話せるように

に赴き植生の見方、草種について理解を深める事が出来ました。

私が平日頃よりお世話になつている、共済組合中春別家畜診療所の獣医師の先生方の講義では繁殖関連や伝染病の基礎知識、対策などを日頃では伺うことのないようなお話を、非常に濃い内容で説明して頂き、時には質問なども織り交ぜ

なりました。おかげで受講中でも度々話題が脱線してしまい、講師の方々、担当の職員さんには迷惑をかけてしまいました。その脱線が思わぬタイミングで受講の内容に繋がったりなどして、今振り返ると日々充実していたと思います。

受講内容は農協という組織そのものの歴史から始まり、現在の中春別農協の事業の内容を過去にあった出来事なども織り交ぜながら、また各関係機関の役割や後継者に必要な酪農の知識など事細かに知ることが出来る内容でした。時に内容が濃過ぎてすべてを把握

た有意義な講義になり、理解を深められました。

こうして一年間のカリキュラムを終え率直に思えた事として、今や酪農をも取り巻く環境の厳しさを身をもって感じた事です。安定的な酪農経営のためには、非効率の排除や事故の軽減が必須であり、そのための「みらい塾」での実践的な講義であつた、と振り返る

することが難しいものもありましたが、質問すると講師の皆さんは分かりやすく説明してくださいました。今まで積極的に話すことの無かつた職員や関係機関の方と話す機会は私にとって大きな収穫でした。酪農という職業が実に多くの人の機関の働きに支えられているかということを知ることが出来ました。その中である時、講師に「3期生は、良い意味でうるさいね」と言われたことは特に印象的でした。

また、先輩酪農家さんにお会いし、みらい塾の話題になつたときに皆さん一様

ことが出来ました。

これまで我々受講生のために、理解のし易い内容での講義を受け持つて頂いた講師、関係所管の方々には深く感謝の意を表したい事と思ひます。

ありがとうございます。

「それは貴重な機会だ」「若い時にみらい塾があつたら行きたかつた」と話して下さったとき、自分が酪農を勉強するのに恵まれている環境にいることを改めて感じました。みらい塾での一年間は他の地域の後継者と交流できるだけでなく、多くの酪農の先輩、人生の先輩と出会うことが出来る貴重な機会でした。将来、家業を後継するものとしてこれから多くの先輩方と出会い、そこで吸収したものを経営に活かしていきたいと思ひます。

労働力補完に取組み、 ゆとりのある生活を

去る2月7日(火)に農業者団地センターにおいて、中春別
営農サポート協議会(馬場文夫会長)の第10回通常総会が
開催されました。

開会にあたり馬場会長よ
り挨拶があり、続いて来賓
から中春別農業協同組合代
表理事組合長・小湊保氏と
中春別酪農対策協議会会長・
望月英彦氏より祝辞をいた
だきました。



中春別営農サポート協議会 第10回通常総会



議長には豊
原地区の久保
義則会員が指
名され、議事
に入りました。
第1号議案「平
成23年度事業
報告及び収支
決算について」、
第2号議案「平
成24年度事業
計画(案)及び
収支予算(案)
について」、議
案第3号「賦
課金の賦課及
び徴収方法に
ついて」第4
号議案「役員

改選について」以上、全4
議案が提出され全議案可決
承認されました。第4号議
案「役員改選について」で
は、役員選考委員長の原内
修会員より役員選考の結果
が報告され、拍手多数の中、
新役員が決定しました。馬
場会長より「新しいメンバ
ーでこれまで行ってきた学
校訪問や、女性役員と研修
生の交流会を続けていき、
今まで以上に会員に皆様の

労働力確保に役立
って行けるよう頑
張ってまいります
ので、よろしくお
願いいたします」
と新役員の挨拶が
述べられました。
最後に池田副会長
より閉会の挨拶が
述べられ、第10回
通常総会が終了し
ました。今後とも
中春別営農サポ
ート協議会は、会員
の皆様のゆとりあ
る生活を目指し、
労働力補完に取り
組んでまいります。

本年度も昨年同様、会員の
皆様のご理解とご協力をお
願い申し上げます。
平成24年度からの新役員
構成は以下の通りです。

- | | |
|-----|--------|
| 会長 | 馬場 文夫 |
| 副会長 | 南澤 斎 |
| 理事 | 佐藤 貴志 |
| | 久保 朋子 |
| | 小林 婦美子 |
| | 小原 登代子 |
| 監事 | 所 勝弘 |
| | 小湊 均 |

良質な粗飼料で 良質な生乳生産を

良質生乳生産推進委員会
良質粗飼料生産利用対策委員会
合同講習会

良質生乳生産推進委員会
(藤倉紀夫委員長)・良質粗
飼料生産利用対策委員会(西
川寛稔委員長)合同による
講習会を、去る2月24日34
人出席のもと開催されまし
た。講師には根室農業改良
普及センター・高村一敏氏、
坂口哲也氏にお願いいたし
ました。



まず高村係長から「体細
胞数低減につながる飼養管
理」について、事例紹介をし
ながら、飼料給与管理の注

会員一丸となつて 事業運営に更なる努力を

乳牛改良同志会（山田博和会長）では1月23日、白樺食堂において第24回定期総会が31人の参加のもと開催されました。

始めに平成23年度新規E X牛を獲得された山田光男さん、橋本幸二さん、目黒雅明さん、宗像宏充さん、

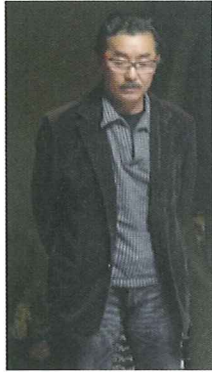


竹田潤さん、山田博和さん所有の牛が表彰され、特別賞として自家生産牛4代E X牛、自家生産牛3代E Xを達成された山田光男さん、自家生産牛5代E X、自家

生産4代及び姉妹E Xを達成された橋本幸二さんにそれぞれ記念品の贈呈が行われました。

昨年度のE X獲得が累計200頭に達成し、記念の授与式となりました。このことを記念して、今年度E X200頭達成記念額の作成を取り進めていくことにもなっております。

定期総会の開催にあたり山田博和会長より、一年を振り返っての開会の挨拶が述べられ、引き続き総会を



祝し農協を代表して小湊組合長と、来賓の方を代表してジェネティクス北海道東事業所所長の小林英聡様

乳牛改良同志会 第24回定期総会



より酪農諸情勢の現況を交えた種雄牛の説明なども含めての祝辞をいただきました。

議事に先立ち、議長には豊原地区の久保光大会員が選出され、議案第1号から議案第3号まで審議され、すべて可決承認されました。

昨年度の各事業においては当同志会事業はもちろんで、町協議会、管内協議会への事業等にも活発に参加し、

活動や成果については充実されたものがあつたと思われませんが、今年度の各事業の運営に更なる参加者を見込むためにも、当同志会が一丸となつて努力して行く事と思われまふ。

総会終了後、懇親会が行われ、会員及び関係機関の方々との親睦が続き盛会の内に終了する事ができました。

意点、正しい搾乳手順等解り易い説明でありました。



続いて坂口普及員からは、「草地を長持ちさせるポイント」と題して、草地長持ち3箇条

①草地更新時に除草剤を適切に使用する。

②更新後に必要に応じて掃除刈りや除草剤の散布をする。

③草地には石灰を施用する
また、草地のPHと石灰分の減少により、肥効率の低下、収量の減につながる。土壌PHに基づく施用が必要であり、良質な粗飼料を給与することで、良質な生乳生産ができる。

2時間ほどの講習会ではありましたが、実のある勉強ができたと思えます。



自給飼料給与と放牧が基本 全酪連飼養管理方法による預託受入調整牧場

全酪連中春別育成センター完成



全酪連中春別育成センター完成に伴い、平成24年1月20日(金)、全酪連赤坂常務理事他関係職員と農協役員、工事関係者が参加し竣工式が執り行われました。全酪連による搾乳素牛預託事業は平成元年より実施されてきましたが、初妊牛価格高騰による自家育成牛の増、雌雄選別精液の普及、府

県公共牧場の閉鎖に伴う北海道預託への切替等により、道内への預託希望頭数が急増していました。

全酪連としては緊急的に受入牧場を確保しなければならぬ状況にあり、共和牧場に対して受入頭数の増頭を検討したものの、現有施設(平成15年建設)では組合員預託を含め750頭が許容範囲であり、これ以上の受け入れは困難な状況にありました。

このような中で全酪連としては、今後酪農畜産部門の事業を北海道へ重点的に展開したいとの考えのもと、庭先購買、市場購買、府県預託事業を絡めた事業展開を考えており、全酪連飼養管理方法による自給飼料給与と放牧を基本に対応可能な預託受入調整牧場として、共和育成牧場に建設を計画し、この度完成いたしました。



3月より府県酪農家から育成牛200頭を受入し、預託事業を開始しますが、今後は拡充する預託事業を基に、当地域の乳牛購買事業の拡充と新規購買者確保に向け、積極的な事業展開を図って参ります。

なお、施設規模は、施設地造成面積9396㎡に、給餌舎、畜舎(200頭収容)、パドック、堆肥舎、乾草収納庫2棟を建設しております。

営農対策情報

根室農業改良普及センター

早春から始める「ほ場管理」

今回は、早春から始める「ほ場管理」について説明します。

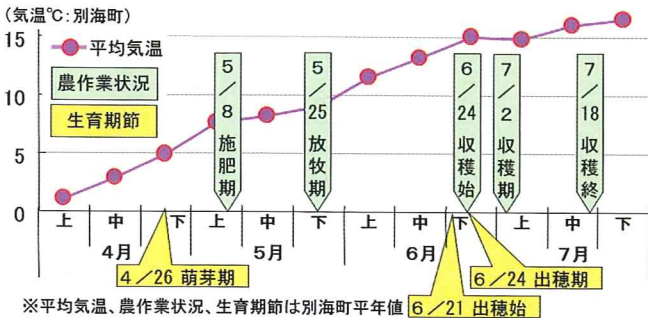


図1 管内の牧草生育と農作業状況(1番草のみ)

1 管内のほ場作業の状況について

図1に、管内の牧草生育と農作業状況を示しました。牧草の生育は、気温が上がり始める4月下旬が萌芽期になります。

○施肥のポイント

チモシーは、萌芽期に施肥すると1番草の出穂茎数が多くなり、乾物収量が最大になります。

平年値では萌芽期(4月26日)から、施肥期(5月8日)までの12日間が改善で

きるポイントです。早春施肥は、草地にトラクターが入れるようになったら、なるべく早く行いましょう。

また、スラリーの早期散布は、増収効果に加え、原料草への異物混入減少につながります。スラリーは、足のかかるぶしまで草が伸びないうち(草丈20cm以内)に散布を終わらせるよう準備しましょう。

○1番草の収穫開始時期のポイント

適期施肥・糞尿散布を早めることで、1番草の生育が順調にすすみ、収穫作業を早めることができます。

チモシー主体草地で栄養収量が最大となるのは「出穂始」から「出穂期」です。その結果、収穫適期は「出穂始前」の穂ばらみ期「出穂期」で、14日間程度あります。平年値では、収穫開始が6月24日となっていますので、適期に収穫作業を進めることが必要です。

事前に資材の発注、ほ場取付道路やサイロ周りの整備、作業機の点検・準備を計画的に行いましょう。

2 「ほ場図」を作成して記録する

現地地、草地管理が上手な農場にはほ場図(図2)を見せて頂いたところ、一枚のほ場図には、我が家のほ場データがぎっしり詰まっています。

ほ場管理は、作業だけでなくデータとして管理・蓄積することが重要で、

- ・ 植生や飼料分析結果を反映した施肥
- ・ 効率よく間違いのない作業の実現
- ・ 収量や成分の改善によるコスト削減

につながります。

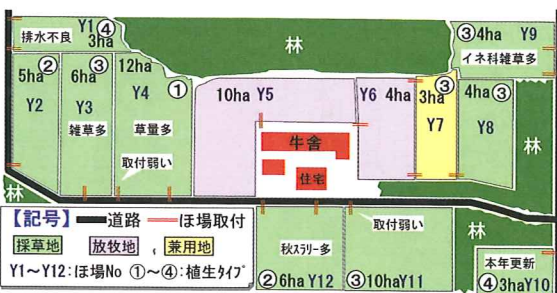


図2

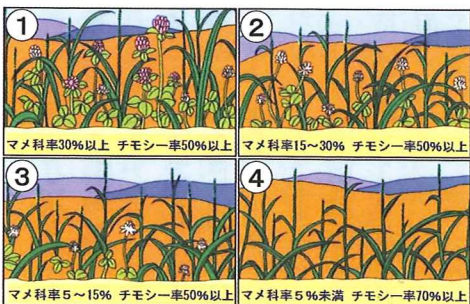


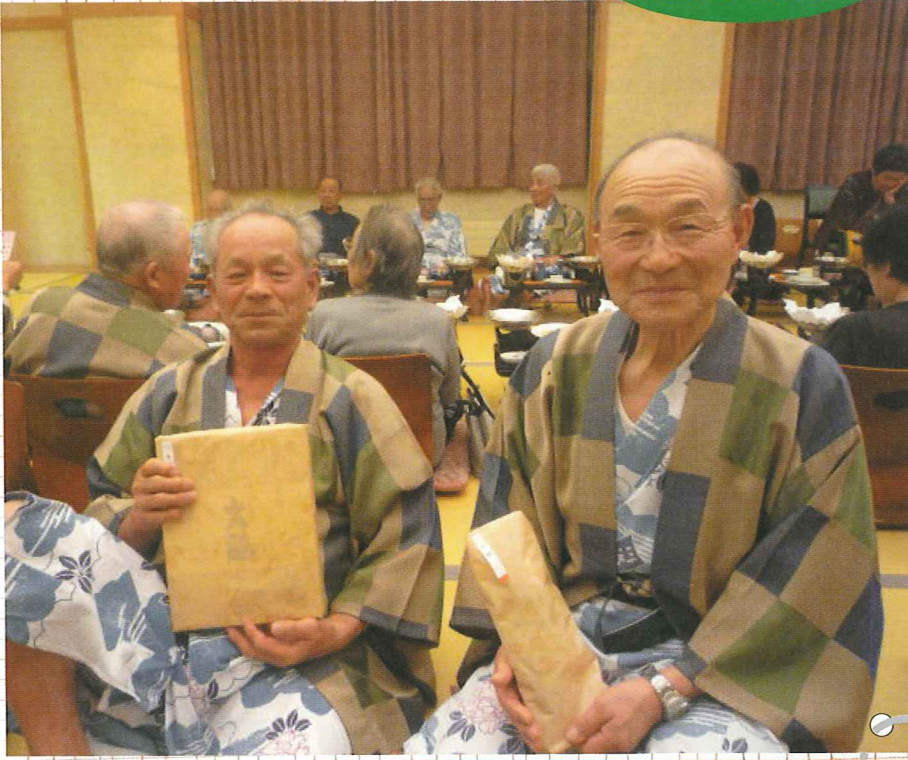
図3 草地のマメ科率区分による植生タイプ

データに基づいたほ場管理と、ほ場作業スケジュールを決めて、良質自給飼料の確保に努めましょう。

- ほ場図作成のポイント
- ① ほ場の航空写真を薄目(カラー)にコピーします。
- ② 我が家のほ場を区別するためにマジック等でなぞります。このとき道路と、ほ場の取付等を記入するとさらに便利です。
- ③ ほ場名、面積、採草地等利用区分を記入してほ場図の原本が完成です。
- ④ ほ場図の原本をコピーして、施肥や家畜糞尿散布、植生タイプ(図3参考)、更新年など、気がついた情報をメモします。こうすることでデータの管理と蓄積ができます。

いい湯につかった後は、カラオケ教室で一段と歌にみがきがかかりました。

平成23年度根室管内JA温泉湯治が、2月7日から2泊3日の日程で川湯観光ホテルにて開催されました。今年度は全体で46人の参加となり、当JAからは12人の参加でした。



1日目は夕方ホテルに到着し、夜の宴会までの時間は温泉にはいったり、お部屋で休んだりして過ごされていました。初日の宴会がスタートし、宴会中には喜多島麻鈴(きたじままりん)さんの歌謡ショーでの数々の名曲が披露され、皆さん歌を口ずさんだり、記念写真を撮ったり、CDを購入されたりと大変楽しんでいました。その後、毎年恒例のビンゴ大会が行われました。最初はなかなかビンゴという声が上がらなかったのですが、一人が景品を受け取

ると、次々とビンゴという声が上ががり、あつという間に景品がなくなり楽しい宴会が終了いたしました。

2日目は映画鑑賞とカラオケ教室が行われました。映画鑑賞は今年3作目が劇場にて公開されました「ANTHROPOMORPHIC」が公開され、皆さん昭和の懐かしき時代を思い出しながら楽しんで観ていました。映画鑑賞後は皆さんでカレーライスを食べ、その後、カラオケ教室が始まり講師として香川企画さんをお招きしました。

「歌うと皆さんとても上手で、講師の方からも「皆さんお上手だから今日言うことは何もありません」と笑って評価されていました。

夜からの宴会にはカラオケ大会が催され、1曲目には当JAから橋本幸岳さんが歌われ、その後10人の方が歌われました。その後、審査員から賞品が渡され、宴会の締めとして当JAより高橋昌晴さんの挨拶で宴会は終了しました。その後も皆さんそれぞれに、夜の更けるのも忘れ最後の夜を楽しめました。

今年度は昨年より多くの方に参加いただきありがとうございました。2泊3日という短い時間ではありましたが、ゆつくりくつろいでいただけただでしょうか？来年度も数多くの方が元気に参加されることを楽しみにしています。



わが家のアイドル

名前どおりに育ってくれれば幸せです

今月のアイドルは美原地区の玉木さん宅を訪問致しました。当日は天気がよくとても晴れた日だったので家の前での集合写真をとりました。

家の中にお邪魔するとお菓子(お菓子)の甘いにおいがします。「どうぞ。よかつたら食べていってください」と、母の裕子さんの手作りマドレーヌをもてなしてくれました。「お菓子をよく作ってくれます。たまに失敗もありません。さすが…」と健介君、優輝君と一緒に笑う父の忠さん。和やかな家族と会話しながらできたてのマドレーヌをおいしくいただきました。

長男は中学1年生の健介くん。名前には「健康に育



美原地区

祖母・恵めぐみさん
父・玉木ただし忠ちかさん
母・裕子ゆうこさん
長男・健介けんすけくん(12歳)
二男・優輝ゆうきくん(9歳)

ち、人の助けになつてほしい」との両親の願いが込められています。「最近将棋にはまっています」と話す健介くん。休み時間を使って将棋に打ち込む健介くんですが、休み時間では勝敗がつくまでで済むに終わってしまふみたいで、「勝率はあまり良くないです」と残念そうに話します。部活は野球部に所属し、学校が終ると野球の練習で仲間と汗を流し過ごしています。

二男の優輝くんは体を動かすことが好きな小学3年生の男の子。去年からバドミントンの少年団に所属し、練習に打ち込んでいます。学校では友達とドッチボールを楽しみにしています。勉強は体育と国語が得意で「本を読むことが好きです」と話してくれました。名前には「優しくて輝いてほしい」との思いが込められています。

最後に両親から子供たちへの思いをお聞きしました。「2人は思いやりがあり、何かあるとすぐに気がつくことのできる優しい子。お兄ちゃんの健介くんは場の空気を読んで、何かあった時に手を貸すことのできる子。弟の優輝君は人に世話を焼くお世話焼きさんです。それぞれ名前の通りに育ってくれば幸せです」と両親の思いをお聞きできました。当日は取材のご協力ありがとうございました。

青年部のページ



農協若手職員と 青年部会員とのワクワク交流会

2月10日(金)青年部青年部会(小西祐司部会長)では、農協職員12人、青年部会員11人の参加のもと、つば八(中標津店)にて交流会を開催致しました。

小西部会長の「乾杯」の音頭とともに、料理やアルコールを嗜みながら会話に華を咲かせていました。当日は普段あまりかわりのない方との交流をしていただくことを目的に、クジにて席決めを行いました。30分もすれば、アルコールも回り皆さん席なんてあつてないようなものでした。皆さん笑顔が尽きず終始賑やかな交流会になったのではないのでしょうか。

今後もこういった機会を設け、職員・青年部員間の親睦を深められればと思います。



農業特別専攻科からのお知らせ

専攻科同窓会の皆様へ

農業特別専攻科が別海高校に開設されて今年で40年を迎えるにあたり、記念事業協賛会を昨年5月に設立しました。

記念事業協賛会で計画・承認された会務につきまして、下記のとおり現在の進捗状況を報告させていただきます。

記

(1)記念誌の発行について(平成24年11月発行予定)

・昨年12月にニュージーランド研修座談会を開催

(過去にニュージーランド研修に参加した23名が集まり思い出を語りました)

・記念誌作成に伴う行事も終了し、依頼した原稿等もほぼ集まりましたので、現在は編集作業をしております。

(2)永年功労者表彰について

・計画どおり進行しております。

(3)財務状況について

・同窓会報に掲載いたします。

*会務の詳細な進捗状況につきましては、毎年度末に配布しています専攻科同窓会報に掲載しますのでご確認ください。

科 訓
酪理実践

北海道別海高等学校農業特別専攻科

●【専攻科】北海道青年農業者会議に参加しました。

1月31日(火)～2月1日(水)、札幌パークホテルを主会場に平成23年度北海道青年農業者会議が開催されました。今年は専攻科から、昨年12月に行われた根室管内青年農業者会議のアグリメッセージ部門で最優秀賞に選ばれた2年目学生の三上沙耶香さんが参加しました。

1日目は園芸部門・作物部門・畜産経営部門・地域活動部門のプロジェクト発表が行われ、夜は交流会が開催され、各地の4Hクラブの代表者や関係機関の方々との親好を深めました。

2日目は朝からいよいよアグリメッセージ部門の開始です。全道12の振興局の代表は年齢も18歳から32歳と幅広く、現在に至る軌跡も様々ですが、どの発表も日本の食糧基地北海道の将来を担う心意気にあふれていて聞き応えのあるものでした。その中で紅一点の三上さんは、惜しくも入賞はなりませんでした。練習の成果を遺憾なく発揮し、彼女らしいさわやかさに満ちたメッセージを発信してくれました。

満員の聴衆の前で堂々と自分の意見を述べ、全国の農業青年と交流を深めた経験は、今後地域で人工授精師として活動する上での糧となることと思います。大変貴重な経験をさせていただいた2日間でした。(文責:寺内まどか)



発表会場前

【酪農経営科&専攻科】

海外研修報告会&就農激励会を実施

海外研修を終えた農業特別専攻科学生と酪農経営科酪農経営コース3年生の合同報告会が1月26日(木)に、本校体育館にて開催されました。本年度は農業特別専攻科2年目学生の佐々木克典君がニュージーランドにて67日間の酪農研修を、酪農経営科酪農経営コース3年の生徒5人(上神大地君、小川賢悟君、小熊俊博君、畑中真治君、細谷晶大君)がオランダ・ドイツ・フランスの3カ国を9日間の日程で視察研修した成果を発表しました。

報告会は別海町酪農後継者を育てる会の役員を始め多数の来賓を迎え、研修に参加した生徒・学生がそれぞれ視察研修先での写真を用いながら研修の報告をしました。

ニュージーランド北島の酪農家で研修した佐々

木君は、放牧の特徴やシェアミルク制度などについて感想を交えながら成果を報告しました。

また、酪農経営科ヨーロッパ視察報告は、オランダの花牧場、ドイツのトラクタ工場、フランスのランジス市場の視察などを中心に報告をしました。



体育館で海外研修を報告する生徒

報告会終了後には、酪農後継者として本年度卒業を予定している酪農経営科生徒6人と農業特別専攻科学生7人と来賓が一堂に会して、就農激励会が行われました。参加生徒・学生は、これからの抱負を交えてそれぞれ挨拶し、来賓から激励の言葉をいただきました。(文責:加瀬利憲)

【酪農経営科】活動内容を報告

1月25日(水)、本校体育館で農業クラブの北海道実績発表大会に出場した4発表が、全校生徒の前で発表を行いました。

この取り組みは、酪農経営科で活動している内容を普通科の生徒にも知ってもらおうと、昨年度から始めたもので、普段とは違った酪農経営科の生徒の様子に感心しながら、発表を聞いてくれました。

2月25日(土)には、より多くの町民の方に活動を知ってもらうため、マルチメディア館で町民向けの活動報告会を実施します。(文責:藤井隆史)

【酪農経営科】全道実発、入賞ならず

2月2日(木)、3日(金)の2日間、壮瞥町(洞爺サンパレス)を会場として、平成23年度日本学校農業クラブ北海道連盟第63回全道実績発表大会が行われ、本校からは、環境区分に1発表出場してきました。

残念ながら、入賞はなりませんでした。練習の成果を十分に発揮した発表となりました。

【区分:環境】 出場

大型酪農経営地帯における環境負荷低減技術の確立を目指して

小熊俊博(3)上神大地(3)小川賢悟(3)丹羽広和(2)

(文責:藤井隆史)

【酪農経営科】全員進路決定!

3月1日(木)の卒業式を前に、酪農経営科3年生16人の進路が全て決定しました。酪農経営科としては3年連続進路決定率100%の達成です。

内訳は、大学1人、専門学校7名、就職8人となっています。これからも、様々な力をつけるために、頑張っていきます。(文責:藤井隆史)



生乳課情報

平成24年2月29日現在

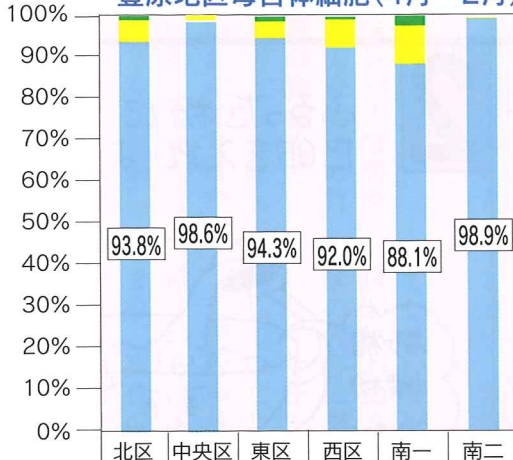
生乳汚染事故を無くそう！

- 抗生物質混入事故……JA中春別発生件数 1件 管内では 8件の発生です。
- 生菌による汚染事故…JA中春別発生件数 0件 管内では 0件です。
- 異物混入、異臭、加水による汚染事故…JA中春別発生件数 0件です。
管内では 0件です。

舎内の“牛”飲料水はどうか？

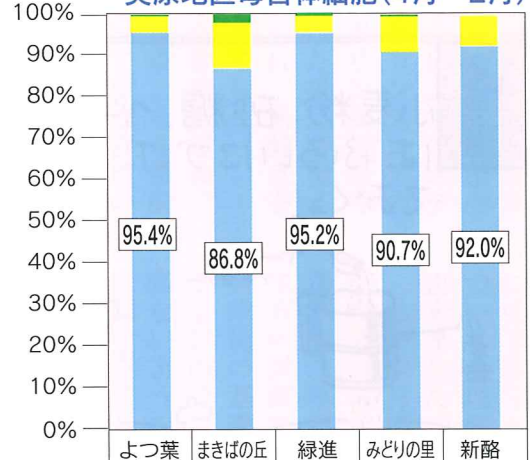
牛の飲水行動は汚れた水や、氷水のような冷たい水は苦手とされています。
水槽周辺や、ウォーターカップの汚れは大丈夫ですか？

豊原地区毎日々体細胞(4月～2月)



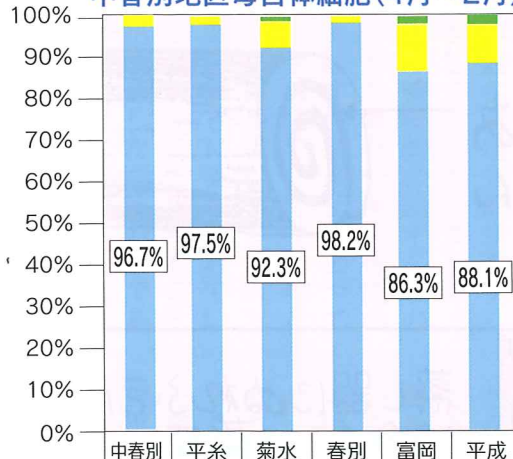
■ 50.5万以上	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%
■ 40.5～50.4	0.9%	0.1%	0.9%	1.1%	2.5%	0.1%
■ 30.5～40.4	5.1%	1.2%	4.6%	6.7%	9.2%	1.0%
■ 30.4万以下	93.8%	98.6%	94.3%	92.0%	88.1%	98.9%

美原地区毎日々体細胞(4月～2月)



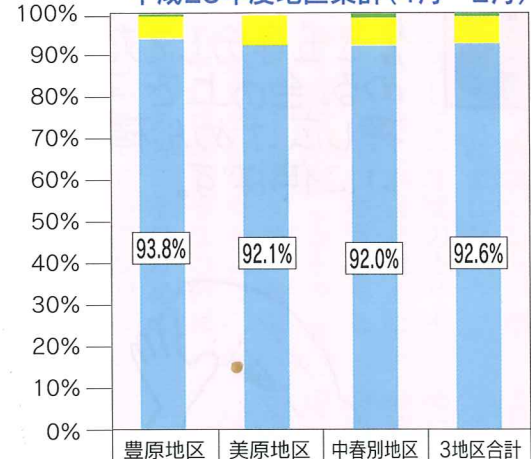
■ 50.5万以上	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
■ 40.5～50.4	0.6%	2.2%	0.7%	0.6%	0.9%
■ 30.5～40.4	3.8%	10.8%	3.9%	8.7%	7.1%
■ 30.4万以下	95.4%	86.8%	95.2%	90.7%	92.0%

中春別地区毎日々体細胞(4月～2月)



■ 50.5万以上	0.0%	0.1%	0.3%	0.1%	0.4%	0.5%
■ 40.5～50.4	0.5%	0.3%	1.3%	0.0%	2.3%	2.2%
■ 30.5～40.4	2.8%	2.1%	6.1%	1.7%	11.0%	9.2%
■ 30.4万以下	96.7%	97.5%	92.3%	98.2%	86.3%	88.1%

平成23年度地区集計(4月～2月)



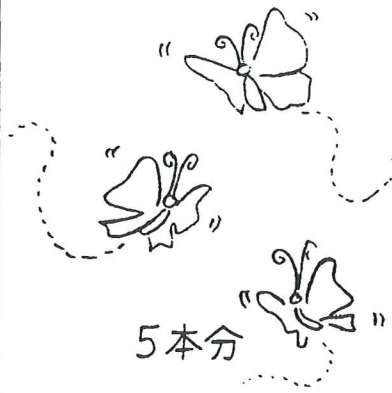
■ 50.5万以上	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%
■ 40.5～50.4	1.0%	0.9%	1.3%	1.1%
■ 30.5～40.4	5.0%	6.9%	6.4%	6.1%
■ 30.4万以下	93.8%	92.1%	92.0%	92.6%



MILK COOKING PART 15



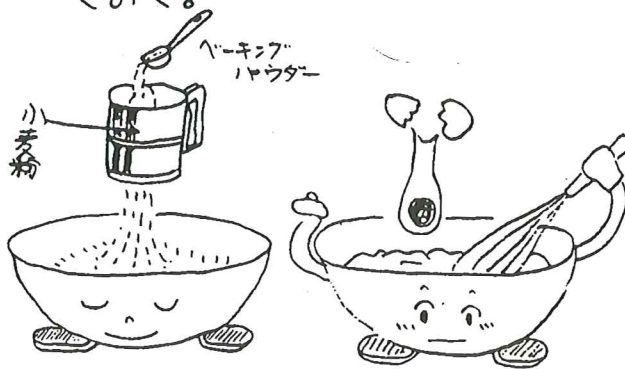
まきようかん



小麦粉	-----	200g
砂糖	-----	170g
ベーキングパウダー	-----	小さじ3
卵	-----	1個
牛乳	-----	50cc
あん	-----	適量

1

小麦粉、砂糖、ベーキングパウダーは、ふるいにかけて、卵は、泡立ておく。



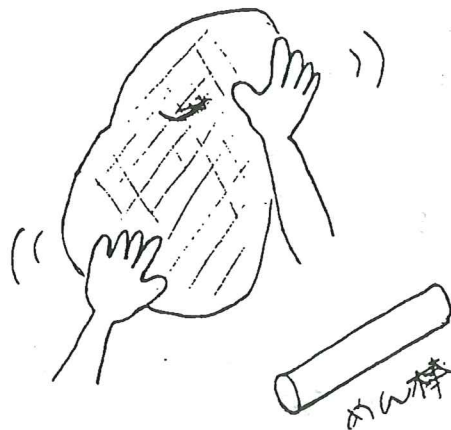
2

ふるった粉に、牛乳と泡立てた卵を入れ、よく混ぜ合わせる。



3

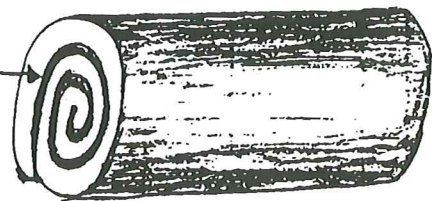
2を五等分して丸くまとめる。台の上で、平均に押し広げめん棒をきれいに伸ばす。



4

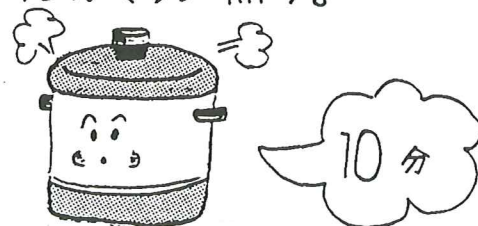
あんを入れて、棒状にまとめる。

あん



5

蒸し器にぬれふきを敷いて10分くらい蒸す。



議案

1. 出資金の減口及び組合員資格の変動について
2. 平成23年度自己査定に係る債務者区分判定方法について
3. 国債窓販業務の廃止について
4. 貸出業務手続(信用限度の設定)の一部変更について
5. 固定資産の取得について
6. リース契約について
7. 平成24営農年度財産造成に伴う資金の貸付について
8. 大家畜特別支援資金借換額の変更について
9. 平成23年度酪農ヘルパー円滑化対策事業基金の取崩額について
10. 家畜伝染病予防法改正に伴う看板の設置について
11. 平成24営農年度クミカン暫定取引について
12. 平成24年度理事報酬の諮問(案)について

報告事項

1. 平成23年度12月末監査講評について
2. 組合員加入について
3. 平成23年度1月末決算見直しについて
4. 平成23年度自己査定12月末仮査定結果について
5. 農業経営活性化特別対策事業(中央会口・公社口)の廃止に伴う取進めについて
6. 年度末貯金推進の実施について
7. 固定資産の取得について
8. 平成24年度1月末営農生産関連実績について
9. 平成24営農年度信用限度について
10. 人・農地プラン作成取り進め経過報告について
11. 共和育成牧場預託牛の事故に対する互助会規程による見舞金の支払について

1月 乳質乳価一覧表

(単位:円/kg)

		単価	算出基礎	支払乳価	前年同期	差	
乳脂肪分		760.382		30.75	29.71	1.04	
無脂乳固形分		479.455		42.21	40.64	1.57	
補給金		4.9976		5.00	4.91	0.09	
計画チーズ奨励金							
乳質単価	生菌数	ランク1	2	314,818,512.6kg	3.72	3.74	-0.02
		ランク2	0	6,362,039.0kg			
		ランク3	-3	116,118.7kg			
	体細胞数	ランク1	2	273,441,320.6kg			
		ランク2	1	25,571,705.2kg			
		ランク3	-2	3,780,100.8kg			
合計				81.68	79.00	2.68	

1月分乳代支払単価

項目	単価(円)/(kg) %	
乳脂肪分①	30円75銭	
無脂乳固形分②	42円21銭	
補給金③	5円00銭	
チーズ奨励金④		
脂肪率	全道	4.04%
	農協	4.11%
無脂固形分率	全道	8.80%
	農協	8.78%
成分乳価	全道	77円96銭
①+②+③+④=⑤	農協	78円35銭
乳質乳価⑥	全道	3円72銭
	農協	3円82銭
乳代合計	全道	81円68銭
	農協	82円17銭
⑤+⑥	差異	49銭



楽しい家族と一緒に

荒瀬さん家のポチくん・シロくん

犬♂(雑種)4歳

犬♂(雑種)4歳

豊原地区・荒瀬 理さん家

★**飼い始めたきっかけ**

4年半前に親戚の家で子犬が産まれたので兄弟同士の2匹を譲ってもらいました。

★**名前の由来**

ポチはわかりやすい名前なので「ポチ」。シロは体の色が白いので「シロ」とつけました。

★**好きなこと(もの)はなんですか？**

人なつっこく、遊んでもらうのが大好き。毎日牛舎の近くまでの散歩も楽しみにしてま
す。

★**PR**

たれ耳がチャームポイントのシロは1回で視線をくれましたが、カメラを向けるとお
となしくなってしまうポチ。遊びに夢中になっている所を撮りました。鹿やキツネを見
つけると吠えだす2匹。鎖から放すと走りだして鹿を追い払います。シロの方は足が
早く、牛舎のネズミも捕まえるわんちゃんです。

編集後記

▼3月に入り日ごとに暖かくなり始めましたが、先日の大
雪で牛舎やD型などの建物が
つぶれてしまう被害が続
き、
当農協区域でも8件の被害が
出ております。屋根の雪おろ
し作業は事故のないよう安全
を心掛けて行い、被害を未然に
防ぎましょう。

▼東日本大震災から1年が経
ちました。家や家族を失った被
災者をはじめ、日本各地での
震災の影響は大きいもので未
だ震災の傷跡を消すことはで
きませんが、私たち一人ひとり
にできることを見つけ、協力し
ていくことが必要だと改めて
実感します。

▼さて、卒業シーズンになりま
した。入学に向けての準備や引
越しなど新しい気持ちで春
を迎えたいために、忙しい時期
をお過ごしの方もいるのでは
ないでしょうか。来月号では卒
業式の様子を掲載いたします。